

脳ドックで期待される認知症早期発見のため嗅覚機能スクリーニング検査

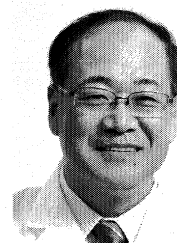
浦上 克哉

鳥取大学医学部認知症予防学講座

認知症をきたす代表疾患であるアルツハイマー型認知症（AD）では記憶障害が出現する前に嗅覚障害が出現する。病理学的にも嗅神経に早期からアミロイドβ蛋白が蓄積することが報告されている。早期に、この嗅覚障害を発見し病気の進展を防ぐことが期待される。そこで、短時間で負担なく施行でき、有効性が期待できる嗅覚スクリーニングキット（ニンテスト）を開発した。嗅覚機能検査は認知機能検査より被験者の抵抗感が少なくスクリーニング検査として優れていると思われる。本邦でも抗アミロイドβ抗体薬が認可されMCIから軽症のAD診断が求められている。現在進行中の治験においては、MCIよりさらに前段階であるPreclinical ADが対象となっている。MCIからPreclinical ADを早期に見つけるために、脳ドックでの嗅覚機能のスクリーニングキットの活用が切り札になる可能性がある。

略歴 浦上 克哉（うらかみ かつや）

1988年3月 鳥取大学医学部大学院博士課程修了
1989年4月 鳥取大学医学部脳神経内科・助手
1996年2月 鳥取大学医学部脳神経内科・講師
2001年4月 鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座環境保健学分野・教授
2016年4月 北翔大学・客員教授（併任）
2022年4月 鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座（寄附講座）・教授



所属学会・認定・資格

日本認知症予防学会（代表理事・専門医）、日本老年精神医学会（理事）、日本老年学会（理事）、日本化粧医療学会（理事）、日本老年医学会（代議員・指導医）、日本認知症学会（代議員・専門医）、日本脳ドック学会（評議員）